

<p>教育方針</p>	<p>1 心身の調和的発達を図り、健康で明るい人間を育てる。 2 地域社会との触れ合いを深め、情操豊かなたくましい人間を育てる。 3 社会生活や家庭生活に必要な態度や能力を養い、勤労を尊ぶ人間を育てる。 4 保護者・児童生徒からの要請に基づいた合理的配慮の提供に努力する。</p>	<p>重点目標</p>	<p>地域社会の未来を自分らしく生き抜く力の育成 — 瞳輝き、心つながる自己実現を目指して — ① コミュニケーション力 【伝える力(表現力)】自分の気持ちや考えを表現し、伝える力を育む 【感じる力(共感性)】相手の気持ちや思いを肌で感じる感性を育む ② 自己肯定力:達成感を積み重ねることで、自信を育む ③ 挑戦力:自ら主体的に考え行動し、根気強くチャレンジする力を育む ④ 生活力:社会の中で自立して豊かに生きていくための力を育む</p>
-------------	--	-------------	---

領域	評価項目 (マニフェスト関連)	具体的目標	評価 (A~E)	目標の達成状況	次年度の改善策
学習指導	学習指導の充実 (分かる授業)	効果的な教材教具の作成や学習系Wi-Fiを利用した情報通信機器(パソコンやタブレット端末等)を効果的に活用して、児童生徒の発達段階に応じた指導方法を工夫し、授業改善に取り組む。	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業での活用がある学級や教科もあれば、生かし切れていない学級や授業もある。教員のICT活用能力を高めることは当然だが、児童生徒のICT活用能力を高める授業を展開する必要がある。 児童生徒の興味関心に合った題材の選定や実態にあった教材教具を工夫することで、意欲的に活動した。また、目標に対してスモールステップで学習を進めることで、知識・技能を身に付け、自信につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 懇談等でどのような活用を行っているか説明しできるよう、授業での活用方法を研究する。 各教科の学習内容について、学部や学年等で話し合い、各教科の指導内容表と照らし合わせながら、年間指導計画を作成する。 何を身に付けるために授業を行うのか、目標を明確にし、個に応じた指導支援を工夫し、授業の振り返りを大切にしながら、授業改善に努める。
	専門性の向上 (専門性)	認定講習の受講促進や、特別支援教育に関する研修の積極的な情報提供を通して、専門性向上の機会を確保する。校内の教員の教育実践を見聞きする場を設定して、学校全体で共有することで、各教員のスキル向上を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> 教員1名が新しい免許状を取得し、認定講習を3名が受講した。外部の研修会に10名以上が長期休業を利用して参加したが、もっと参加をしてほしい。 部研や事例研修会で情報交換をすることができた。 研究授業をビデオに撮り、共有したが、見る時間を確保したわけではないため、その後の研修の効果は未確認である。 校内での学び合いの場が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、認定講習や外部の研修案内を行い、教員全体の1/3程度の研修参加を促進する。オンライン研修も多くあるため、積極的に参加を促す。 研究授業を各部で2回ずつほど割り当てて実施する。参観が難しくても、ビデオを視聴して授業者にコメントを伝える研修を取り入れる。 寄宿舎指導員の先生たちが参加しやすいような研修を設定する。 学校全体で取り組む研究テーマを設定して、研究を進める。小学部から高等部の縦割りで行う研修を充実させる。
生徒指導	生活指導の充実 (挨拶)	個に応じた表現方法を具体的に示し、自ら気持ちの良い挨拶を交わす生活習慣を育成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活全体の様々な機会を通して、児童生徒の個に応じた表現方法で繰り返し挨拶をすることで習慣化し、挨拶をする児童生徒が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活の様々な場面で、場にふさわしい挨拶を示し、さらに習慣化につなげる。 各部ごとに、同じ意識で指導に当たれるよう、教職員での共通理解を図る。
	集団活動の充実 (人間関係)	集団や場の工夫によりコミュニケーションスキルの向上を図る。また、係活動の充実を図り、責任感や自己有用感を高める。	B	<ul style="list-style-type: none"> 集団活動への参加の仕方を工夫しながら、適切なコミュニケーションスキルの向上に努めた。児童生徒の実態に応じながら、係活動に取り組むことで、自分の役割を自覚して進んで活動するようになった。 生徒を呼ぶ際、呼び捨てをしている場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な場面で、社会性を養うようにし、周りと協力し自ら考えて行動できるような機会を増やす。 演劇鑑賞や体験学習等から、児童生徒の気持ちや行動の変化、成長過程を把握し、より豊かなコミュニケーションスキルの向上を図る。 教員が日常的に「さん」付けで呼ぶよう意識統一を行う。
進路指導	進路指導の充実 (キャリア教育)	進路に関する研修の実施や進路だよりなどの配布を行い、卒業後の生活が見通せる情報提供に努め、ニーズに応じた進路選択、進路実現を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路懇談会や就労についての学習会を開催し、保護者に対し進路に関する情報提供に努めた。 進路だよりを年間4回発行し、進路についての情報提供と理解啓発に努めた。 市町の福祉担当課や相談支援専門員と連携し生徒や保護者のニーズに応じた情報提供に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き進路に関する情報提供に努め、希望に応じた進路開拓を行うとともに関係機関との連携を深める。 特に高等部3年を担当する教員へのケアサポートを行う。
		愛顔(えがお)のえひめ特別支援学校技能検定で、1級取得者数20%以上を目指す。 評価基準(A:20%以上、B:18%以上、C:16%以上、D:14%以上、E:14%未満)	A	<ul style="list-style-type: none"> 技能検定1級所得者数34%と目標とした20%以上を達成し、過去最高の成績となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 1級は取れなかったが、1級の実力のある生徒も多い。実技指導アドバイザーの活用やキャリアトレーニングを通して更なるスキルアップを目指す。
センター的機能	地域のセンター的機能の充実 (センター的機能・共生社会への理解啓発)	特別支援教育コーディネーターを中心に内部人材も活用しながら、 全校体制 で外部支援・相談に応じる。	B	<ul style="list-style-type: none"> センター的機能は学校全体で行うことを機会あるごとに校内で啓発を行った。体験入学時の対象児への直接的な指導及び保護者等への教育相談を中心に広く校内の人材活用を行った。連絡会、研修、訪問支援時の複数担当等を通して、コーディネーター間の情報共有に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 依頼先からの要請に応じた相談支援活動が行えるよう、外部支援担当者の育成に努める。 コーディネーターを中心に、引き続き複数で相談を担当したり、事例研修を行ったりしながら、様々な相談内容に対応する力の育成に努める。
		学校行事等の魅力ある活動や、障がいのある児童生徒を支援する具体的な活動の様子をホームページや公開授業などで積極的に情報発信する。ホームページは、週に1つ以上ブログをアップする。	B	<ul style="list-style-type: none"> 目標に上げていた、週に1つ以上ブログをアップする。という目標は達成できていたが、保護者からはもう少し学校の様子を知りたいという要望が出ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事があっても行事担当課からのブログのアップがなかったりしたので、そこは改善したい。HPを楽しみにしてもらっている保護者も多いので、できるだけ学校内の様子をアップしていく。 ICTを活用した授業や普段の授業風景等もアップしていく。
学校安全	安全教育の充実 (安全・防災教育)	ヒヤリ・ハット事例の周知徹底と確実な事例記入により情報を共有し、事故防止につなげる。また、防災マニュアルの見直しを行い、事故の未然防止の意識や対応力を高める。 災害時に備え、避難所設置のための体制づくりをし、必要な物資をそろえていく。施設・設備点検を月1回実施する。	B	<ul style="list-style-type: none"> その都度部会・職員会議を通して情報を共有し、児童・生徒の安全に努めている。防災に関しては、本年度避難所開設に係るマニュアルを作成し、開校時に避難所指定されたケースに対応できるようにした。施設・設備点検も月1回実施し、安全に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 予算の関係もあるが、避難生活を送るのに必要な物資が不足している。優先順位をつけ整備していく必要がある。非常災害時の児童・生徒の引渡し方法に改善が必要である。スムーズな引き渡しができるよう工夫したい。
		自らの命を守る行動が主体的に行えるように、様々な事態を想定し、実践的・現実的な防災訓練を月1回程度実施する。マンネリ化しないよう工夫を凝らす。	B	<ul style="list-style-type: none"> 予告なしの避難訓練の実施など児童・生徒が自ら対応できるよう工夫できた。また、保護者の協力を得て、非常持出し袋の確認を継続して取り組めた。防災に対する児童・生徒の意識も高まったと思う。評価も高い評価を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き予告なしの避難訓練を実施することにより、児童・生徒が主体的に対応する力をつけていきたい。ショート訓練も同じ時間帯にならないよう工夫していきたい。 様々な場面を児童生徒が想像できる工夫をし実践する。
その他	働きがいのある職場環境の充実 (教職員の働き方)	時間外勤務は、上限を月45時間以内とする。 評価基準(A:80%以上、B:75%以上、C:70%以上、D:65%以上、E:65%未満)	A	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務45時間以内の割合は、82%である。 時間外労働時間が45時間を超える人数では、5月が24人と最も多く、8月が0人で最も少ない。 超過時間の平均は59分であり、昨年度より3分減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定の先生方の勤務時間外労働時間が毎月長くなっている。業務量の見直しや削減を進め、健全な労働環境を整えていく。ワークライフ・バランスを実現し、人生が豊かになることで、効果的な教育活動にもつながる。テレワークや早出遅出勤務など、多様な働き方について検討していく。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。